

## 1. Ver. 1.0 からの修正

### 1) 危害評価シート

- ①22 行、D・E 列の入力規制が解除されていない。（現行でも影響なし）  
→解除
- ②20・21 行、N 列～CN 列への移動で、プログラムが選択される。（現行でも影響なし）  
→範囲解除
- ③B・C・D 列、273 行に 272 行と同じものが重複して読み込まれる。（実質上現行でも影響なし）  
→削除し、上方向へ移動（∵B・C・D 列の 292 行は空白）
- ④”A294”セルの“FLASE”は不要な書き込み。（現行でも影響なし）  
→削除、削除後の不具合はプログラムコード（Mod7「貼り付け」）の修正で解消
- ⑤“210 亜硝酸”から“塩素”、“オゾン”のデフォルト処理が組み込まれている。（実質上使用されないで現行でも影響なし）→“塩素”、“オゾン”のデフォルト処理をはずした。
- ⑥「監視方法の分類（K 列）」において、行内に自動計器と手分析が混在した場合、手分析が自動計器より左側の列にあると「3」手分析が書き込まれる。（現行でも手入力により対応可能）  
→プログラムコード（Mod9「監視方法の有無」）の修正で解消

### 2) 作成シート

- ①影響程度分類の目安（残留塩素不足）における「ろ過施設なし」「原水の大腸菌等あり」のデフォルト値が一部欠落（－，－，d）していた。（実質上現行でも影響なし）  
→（d，d，d）に修正
- ②水質項目番号に重複箇所が 2 か所あった。（現行でも影響なし）  
→全体を見直し、更に 2 箇所を削除し、4 項目を追加した。

## 2. Ver. 1.0 からの改善

### 1) 作成シート

- ①浄水処理方式が並列して有する施設への対応を共通部分の活用を含め可能とした。
- ②事業者が有する他の施設への対応を共通部分の活用を含め可能とした。
- ③7 ページ：フローチャートへの貼り付け図を透明から白色に変更するとともに、サイズを整え見やすくした。
- ④10 ページ：「取水～塩素注入」が印刷時に枠から少しはみ出すので、区切り位置を変更した。
- ⑤11 ページ：リスクレベルの比較検証・確定コメントを危害評価シート確定時に自動記載とした。
- ⑥12 ページ：管理措置（処理）の「沈澱」及び「砂ろ過」を、「普通沈澱」及び「薬品沈澱」並びに「緩速ろ過」及び「急速ろ過」と細分化した。
- ⑦12 ページ：管理措置（処理）の選択をやめ、水供給経路シートで選択したものを作成シートへ自動反映させ、本文との整合を確実なものとした。
- ⑧17 ページ：「4.5 危害原因事象のリスクレベルに応じた管理措置」における前段部分の理解が難しく、あたかも“表”を見直すように受けとられるので、文章を変更した。
- ⑨17 ページ：リスクレベルの集計を危害評価シート確定時に自動記載とした。
- ⑩18 ページ：リスクレベル 5 の事象貼り付けを危害評価シート確定時に自動記載にするとともに、抽出矢印と空白行を削除した。
- ⑪19 ページ：リスクレベル 4 の事象貼り付けを危害評価シート確定時に自動記載にするとともに、抽出矢印と空白行を削除した。
- ⑫21 ページ：クリプトスポリジウム等の異常認識の選択において「汚染のおそれはないが、ろ過等はある」を追加し、選択条件を 4 段階とした。また、その選択については「3. 危害分析」の状況から自動出力とした。

- ⑬24 ページ：「残留塩素」の逸脱時の対応（表）に一部明朝体があり、ゴシック体へ変更した。
- ⑭24 ページ：残留塩素の「Ⅱ. 管理基準の逸脱時対応」を監視箇所に応じた自動出力とした。
- ⑮25 ページ：外観の「Ⅱ. 管理基準の逸脱時対応」を監視箇所に応じた自動出力とした。
- ⑯26 ページ：臭気の「Ⅱ. 管理基準の逸脱時対応」を監視箇所に応じた自動出力とした。
- ⑰27 ページ：濁度の「Ⅱ. 管理基準の逸脱時対応」を監視箇所に応じた自動出力とした。
- ⑱28 ページ：pHの「Ⅱ. 管理基準の逸脱時対応」を監視箇所に応じた自動出力とした。
- ⑲ 1 ページ：旧バージョンから記載データを移入するマクロを組み入れた。
- ⑳ 7 ページ：フローチャートの作成施設を全施設に拡大し、出力施設数も最大 22 から 26 箇所に増やした。

## 2) 危害評価シート

- ①シート完成後に作成する「資料①」及び「資料②」を画面貼り付けマクロから、PDF作成マクロに変更し、改ページ部分等を見やすくした。
- ②監視方法の“★”若しくは“☆”の書き込みが「選択、OK」の2クリック選択であるとともに、選択後のクリアについてはデリートキーのみでの対応としているが、監視方法をワンクリック選択にするとともに、“★”と“☆”の入力以外に“誤入力削除”を追加した。
- ③監視方法（“★”及び“☆”の記載）について、水供給経路の施設ごとに有無を記憶させ、水供給経路の変更にも対応できるものとした。
- ④個々の危害原因事象ごとに発生頻度及び影響程度のレベルを記憶させ、事象の削除・挿入や、影響程度のデフォルト値からの変更にも対応できるものとした。
- ⑤影響程度を一括してデフォルト値に戻すマクロを作成した。
- ⑥管理措置の“普通沈澱”追加し、“沈澱”と略表記させることとした。
- ⑦項目別のPDF印刷時に、水供給経路列の方が管理措置列よりも短い場合は、管理措置列の幅をもってPDF印刷とした（印刷幅の選択改善）。
- ⑧管理目標値の変更マクロを作成し変更作業を容易かつ確実にした。また、マクロ実行により変更した値が記憶され、再抽出作業等における再変更作業の省力化を図った。
- ⑨監視方法の分類番号”1”及び”2”にデフォルト項目を設定するとともに、変更可能マクロも作成した。
- ⑩水供給経路上の同一施設における監視計器及び監視箇所が複数ある場合、その数を表示させるマクロに改良した（従来は星印のみ）。
- ⑪資料②のPDF作成において、管理措置が2ページに分かれて出力された場合、管理措置の手前で改ページするマクロを作成した。
- ⑫管理目標の設定施設を登録全施設に拡大した。施設により想定外の管理目標の設定があるという実態を考慮したもの。ただし、空白欄にするには、管理目標値の変更マクロを実行する必要がある。（Ver1.11からの移入は、全てのデータが引き継がれる。）
- ⑬総トリハロメタンの抽出対象項目としてクロロホルム等の4項目も同時抽出とした。

## 3) 危害原因事象シート

- ①CL列の「発生箇所分類」をエクセル関数からVBAに変更し、「危害評価シート作成ボタン」クリック時に内容が更新される仕組みとした。
- ②箇所・種別のグループ単位で危害を“削除”するマクロに、同様のグループ単位で危害を“選択”するマクロを組み入れた。
- ③危害原因事象の「追加箇所」及び「書き直し箇所」についても、ソートすることにより関連する位置へ移動するよう組み入れた。「新規の作成」マクロが実行されるとデフォルト事象に戻る。

## 4) 水供給経路シート

- ①レ点チェック後に経路変更しても、チェックしたレ点箇所を保持するよう組み入れた。
- ②箇所名で処理に関係する部分を青字とした。これにより変更可能部分が分かりやすくなる。